



過疎対策プロジェクト始動

地域で学んだありかた

旭地区に移住するきっかけとなった過疎対策プロジェクト始動

日本再発進！

若者よ田舎をめざそうプロジェクト

2009年9月から2012年3月の間、都市部から募集した10名の若者が、地域の空き家、耕作放棄地を借り、農業をなりわいとした持続可能な農山村の暮らしを実践するとともに、農村コーディネータとして、人々の生活を守り、豊かな自然環境、豊かな人間関係、豊かな生活を実現するための先駆けを目指すことを目的とした事業でした。





緊急雇用対策事業として

稼ぐ農業の志向

しみる山里のホスピタリティと、期待と苛立ちと焦り

チームの崩壊

関係性の再構築

「あんたらいてくれるだけで、うれしい」

みんなで生き残っていくにはどうすればいいだろうか

暮らしをつくるはたらきかたへ

事業からでなくひとりひとりから発想する

覚悟を決めると、関係性がかわる





プロジェクト終了後

事業収入がなくなる。→ 余剰金は給料として支払い。

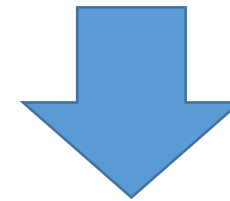


お金があることでできることはある一方で、お金あることでできないことがある。

お金に人生をあずける生きかたに不安定さを感じていたことに気づく。
本当に安心して安定した生きかたは、自分事で生きれること。

地域の命運と自分の人生を重ねて生きるということが心地よい。

地元になくてはならない存在になれた時、稼ぎはついてくる



さまざまな事業を創造しはじめる。

旭には大切にしたい 当たり前の文化があった



人口減少、少子高齢化、空き家、耕作放棄地、放置林、はたらく場所、買い物弱者、介護や看取りなど、モヤモヤする課題はたくさんあるけれども、

「お互いをよく知り、かかわり、一緒に体をうごかす、おせっかいをし、あんじゃないと励ましあう」

という関わりを創り続けることで仮説が転がりだす。



廃校を活用したひとからはじまる場所づくり

つくラッセル

2018年4月オープン

老若男女、移住者も、地域の人もゆるやかにつながりながら、つどい、はたらき、つくる場にしたい





どんな施設か

より

誰とするか



築羽小学校閉校式

2012年3月



つくばマレットゴルフ場











